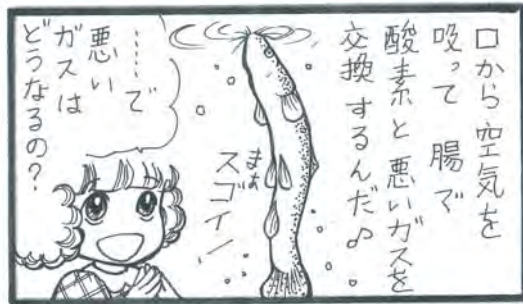


## 第40回 ドジョウ

カコちゃん ショウくん かほがたナルドレシ



ドジョウは、かつてはどこにでもいる生きものの代表でしたが、今では絶滅が危惧される生きものになってしまいました。環境省のレッドリストでは情報不足というカテゴリーに分類されています。環境省によると、「日本各地で放流や飼育施設等から逃げ出したと思われる国外産のドジョウ（遺伝的に国内のものとは異なる）や外来種であるカラドジョウが見つかっており、交雑や種間競争等による影響が懸念されている。一部地域では国外産のドジョウとの交雑による遺伝子汚染が実際に確認されているが、全国的な拡散状況は十分に把握されておらず、評価に必要な情報が足りない」ということです。外見だけでは判断できない遺伝子レベルでの違いのため、皆さんが野外でドジョウを目にしたとき、それが本当に日本古来のドジョウなのか、外国産のドジョウに由来するものなのかは、残念ながらわからないということになります。

石川県のお隣の福井県越前市では、越前西部地域を源流域とする、天王川水系、糠川水系、吉瀬川水系の8箇所の生息地から採集されたドジョウについて、107個体を遺伝解析したところ、糠川水系と吉瀬川水系上流域からは、外交の系統が混ざっていない日本のドジョウが見つかったものの、天王川水系及び吉野瀬水系の下流域では、外来系統のドジョウが侵入し定着していることが明らかとなりました。石川県のドジョウもいつも間にか外国の血が混ざった個体が多くなっているかも知れません。

また、ドジョウとは別種のカラドジョウという中国大陸などに生息する魚も日本に入ってきて増えているようです。在来種のドジョウと同じような場所に生息し、競争の

なかで日本のドジョウを滅ぼしてしまうことが考えられるということで、外来生物法により要注外来生物に指定されています。ドジョウとカラドジョウとは、色調やヒゲの長さから外見で判別できます。

河北潟の周辺では外国の血が入っているかどうか不明ですが、ドジョウそのものがたいへん少なくなっていました。数年前からドジョウの数が減っていることに気づき、注意して調べるようにしていますが、ドジョウが見つかる水路がたいへん少なくなっています。私たちが選定した「河北潟レッドリスト」では、ドジョウは、「かつて河北潟に数多く生息していたが、その後減少・激減した種」、及び「生息に適した環境が急激に失われている種」に分類されています。身近な生きものが次々と姿を消していますが、ドジョウもその一員になってしまっているようです。私たちはドジョウを含む水田の生物の保全のために生きもの元気米の取り組みを拡げています。生きもの元気米の栽培田をはじめとして、河北潟の周辺にドジョウが普通に住むことができる環境が増えていくと良いですね。（文：高橋 久）